世界平和記念聖堂　献堂５０周年ニュース（　vol.1 No.2　３月号）

「祈りと平和」

「こころを一つに平和を宣べ伝えよう」

世界平和記念聖堂献堂５０周年実行委員会　常任委員会

＜ 目 次 ＞

１．お知らせ

●ラッサール神父と共に働いた人達の話を聞く会……２

●情報提供のお願い（再掲）　……２

２．聖堂建設の歴史シリーズ

●「平和祈念祭」におけるラッサール神父の挨拶　…３

３．「ラッサール神父」の思い出

●世界平和記念聖堂の献堂者・カトリック禅の使徒…４

４．「献堂５０周年を迎える祈り」

●今月の祈り　……７

５．資料紹介

●世界平和記念聖堂の建築をめぐって　……８

６．部会だより

＜総務部会＞　……８

＜霊性・典礼部会＞

＜平和活動部会＞

＜聖堂存在維持部会＞

＜記念誌部会＞

「トタン・バラック、再建への萌芽。」

＜写真左＞

被爆直後の火災で焼け落ちた幟町教会。

＜写真右＞

1945 年 12 月、ラッサール神父とチースリク神父は、道具小屋として建てられたトタンバラックに長束修練院から移り住んだ。

※「戦争は人間のしわざです」p.250　チースリク神父の回想録より。写真は幟町教会所蔵。

■お知らせ

「ラッサール神父と共に働いた人達の話を聞く会」の開催

■テーマ：「献堂の精神に触れよう」

世界平和記念聖堂献堂五十周年の今年は、私たち信徒一人ひとりが「平和のために働く人」になるよう行動する一年です。ラッサール神父の聖堂建設の精神を継承するため、当時、共に働いた方々の「生きた声」を聞き、平和についての情熱や思いを共に分かち合いたいと願っています。

「平和の使徒」の一人として、多数の方のご参加をお待ちしております。

■日　時　：２００４年3月２０日（土）
春分の日　午後１時～3　時

■場 所　：広島カトリック会館　多目的ホール
（広島市中区幟町４－４２幟町カトリック教会）

■お話しいただく人（予定）

・野間　重信神父（廿日市教会　主任司祭）
※S.21-35 年、青年会会員として募金活動に参加。

・金沢　文雄さん（廿日市教会）
※創刊号で紹介した「ラッサール神父と広島神冥窟」の著者。

・津野　清次郎さん（祇園教会）
※S.21-29 年、青年会会員として募金活動に参加。

・福間　延子さん（太陽の町　理事長）
※S.21-31 年、聖堂建設部事務員、青年姉妹会会員として募金活動に参加。帰化手続きを手伝う。

■主催：

・カトリック広島司教区　「世界平和記念聖堂５０周年実行委員会」平和活動部会
（担当司祭：肥塚神父）
・問い合わせ：tel（082）221-0621

情報提供のお願い（再掲）

再度、聖堂建設当時の教会の様子や募金活動、献堂式の模様などの刊行物や写真、パンフレット、私的なメモ書きなど資料を提供してください。また、ラッサール神父の活躍、著作や禅の取組み、黙想指導、その他平和記念聖堂を中心に行われた平和活動等に関する情報の提供も歓迎します。世界平和記念聖堂は、今年８月６日に献堂５０周年を迎えます。広島司教区では、フーゴ・ラッサール（帰化名「愛宮　真備」（えのみや　まきび））神父の聖堂建設の遺志を継承・発展させたいと考えています。各小教区の事務所や書庫、ご家庭にある古いアルバムや本棚など身近なところからもう一度見ていただき、情報をお寄せ下さい。

■提出先

広島市中区幟町 4-42　広島カトリック会館内
「カトリック広島司教区　世界平和記念聖堂献堂５０周年実行委員会　霊性・典礼部会」宛

■提出方法

提供資料については、原則として、返却いたします。なお、その必要がない場合は、その旨をご記入して下さい。また、ご提出いただく資料には、必ず氏名と住所をご記入下さい。

■問い合わせ

カトリック広島司教区
世界平和記念聖堂献堂５０周年実行委員会
霊性・典礼部会担当　斉藤真仁神父
広島地区センター　℡（082）221-6698

■ありがとうございました

・ラッサール神父を紹介した「忘れられた聖堂の主」（平成７年４月２３日付の中国新聞切り抜き）
・「世界平和記念聖堂の建築をめぐって」（ラッサール神父と村野藤吾の講演記録）　三篠教会より
・三篠修道院で行われた「修道女のための８日間の黙想指導記録メモ」　三篠教会より
・ラジオ中国放送でのラッサール神父の講話「日本の宗教とカトリック教」リーフレット　三篠教会より
・「献堂直後の聖堂案内パンフレット」三篠教会より

＜聖堂建設の歴史シリーズ＞

前号に引き続き、昭和２６年９月２１日午後４時３０分から広島平和記念聖堂の建設現場において行われた「平和祈念祭」の模様を紹介します。今回は、ラッサール神父の挨拶です。「世界の眞の平和を得るためには、我々はこの地上にあるあらゆる物を超越して永遠なものを求めなければなりません。その高い貴い信念を皆様方に植付けようと存じます。同時に世界に永久の平和を打立てようとするのがこの聖堂の目的である」と力強く訴えています。

＝この聖堂こそ精神文明の基点＝

殿下並びに皆様、本日はこの廣島平和記念聖堂の建設中の現場に於きまして世界平和をお祈りするお祭りの司祭として、無事にその大任を果たさせて頂きました事は、私の最も喜びとする所であります。

平和祈念祭の司祭として御挨拶申上げる前に、本日態々（わざわざ）御臨席を辱う致しました高松宮殿下に對し奉り、厚く厚くお禮申上げたいと思います。高松宮殿下には各方面から或は各種團体から總裁に、又は名譽總裁に御就任して頂くよう御願いがしきりにあつたように聞いているのでありますが、その殆んどを御断り遊ばされたにも拘らず、この廣島平和記念聖堂建設後援會の名譽總裁御就任を御承

諾賜り、その上本日この平和祈念祭に御臨席を辱うし、全くお禮の申上げようもない程であります。厚く厚く重ねてお禮申上げる次第であります。叉、本日世界平和を祈念するために御出で下さいました皆様方にも、今日迄この聖堂建設に並々ならぬ御援助を頂きました事に關し改めて厚くお禮申上げます、尚将来共世界平和のために何卒皆様の御協力と御後援をお願いして止まざるものであります。

皆様先日サンフランシスコに於きまして、和解と信頼の講和條約が調印せられました事は御記憶に新らたな所であろうと存じます。誠に感謝に堪えぬ次第でありまして、これこそ世界平和への第一歩であると言わなければなりません。然し乍らこれは正に世界平和への第一歩でありまして、これから先私共は世界平和を実現するために何十歩、何百歩の努力を重ねなければならぬ事を覚悟すべきであると思います。正に漸く道は拓けたのでありまして、今後皆

様と共に全力をあげて世界平和のために働き抜かねばならぬ事と信ずるのであります。

私が終戦後直ちにこの平和記念聖堂の建設に取りかかつたのも、取りも直さず世界平和への努力の一例でありまして、この聖堂建設には三つの大きな意義を持っているのであります。

その一は、第二次世界大戦に於て初めて出現した近代文明の生んだ新兵器、原子爆弾によってたほれた廣島と長崎の犠牲者や、更に叉全世界の戦死者や、戦傷による戦争そのものの犠牲者が心から望んでいるであろうと信ずる平和への基礎を育てあげるためにその心霊を慰め

その二は、それ等犠牲者に對する断へざる慰霊の祈りが、全世界の心ある人々を引きつけて平和運動を強化してゆくであろうと信じ

その三は、眞の平和のために是非共必要欠くべからざる精神文明の基点として、この聖堂の意義を見逃してはならぬと信ずるものであります。

申し上げるまでもなく近代文明は、利己主義と唯物的観念が益々強くなっているように思われるのであります。無我の精神と、愛の精神を否定して、唯物質と色々な欲望ばかりを求めている以上平和は到底実現出来るものではありません。それはかへって無役な苦しみと、そして人類を滅亡に導く戦争を誘発する以外の何物でもないのであります。

個人の平和と言い、家庭の平和と言い、社會の平和と言い、國家の平和と言い、世界の眞の平和を得るためには、我々はこの地上にあるあらゆる物を超越して永遠なものを求めなければなりません。

恰も御覧のように、この聖堂の高い壁も間もなくもっと高く聳え立つ塔のように、我々の心を天へもとどくような高い所に持ってゆかなければなりません。その高い貴い信念を皆様方に植付けようと存じます。同時に世界に永久の平和を打立てようとするのがこの聖堂の目的であると言えるのであります。

（おわり）

＜ラッサール神父の思い出　＞

「世界平和記念聖堂の献堂者・カトリック禅の使徒」

（愛宮真備）フーゴ・ラッサール神父

＜クラウス・ルーメル神父の講演会より＞

世界平和記念聖堂では、２３年前のヨハネ・パウロ２世広島巡礼を記念して教皇来広行事を毎年行っています。今年は、献堂五十周年記念行事としてイエズス会のクラウス・ルーメル神父による“ラッサール神父様の精神を学ぶ”という講演会を開催しました。ルーメル神父は、これに先立ち教皇来広記念ミサの説教の中で、ラッサール神父の建てたこの聖堂で多くの人と一緒にミサを捧げることが出来て、「涙が出るほどうれしい」と感激されていました。

講演会では、300 人程の聴衆を前に、私たちが初めて触れるラッサール神父の人となりや足跡について、スライドを使ってユーモアたっぷりにお話しいただきました。ルーメル神父は、広島郊外の長束の修練院で被爆され、その日の夜にラッサール神父達を幟町教会近くの縮景園（浅野泉邸）から長束まで救出活動をなされました。１０数名の被爆した宣教師の中で、ただ一人残された神父となられました。

1．フーゴは、ドイツのウェストファーレン州の Externbrock（エクステンブロック）で 1898 年（明治 31 年）に産声を上げた。祖先は多分フランスから亡命したユグノーで、彼の強い意志（頑固さ？）は祖先からの DNA を受け継いだかも知れない。

（注）ユグノー：フランスのカルヴィン派プロテスタントの呼び名。手工業者、医者などの自由人が多かった。（自由国民社「現代用語の基礎知識」）

（家族と少年時代のラッサール神父＝中央後方）

2．小学校 4 年生からギムナジウムに進学、その 8 年目（Unterprima）に徴兵され、第一次世界大戦のただ中、（志願兵として？）短い軍事訓練を受け、間も無く西部戦線に送られた。負傷した上に関節リュウマチのため数回入院したが、鉄十字 2 等受勲、1919 年に高等上等兵（Obergefreiter）の軍隊生活が終わって、別の「王国」一神の国一の兵士になろうと、1919 年（大正 8 年）4 月 25 日にイエズス会に入会、北ドイツのイエズス会管区の修練院は、オランダの S ’ Heerenberg。その前に簡単にギムナジウムの卒業試験（Abitur）（大学入学資格）を受けなければならなかった。

（注　ギムナジウム：大学入学を目指すドイツの中等学校の一つ。（平凡社「世界大百科事典」）

3．2 年間の修練期の後、3 年間の哲学、4 年間の神学をオランダの Valkenburg、イギリスの Stonyhurst や Heythrop で学ぶ。理知的な「煩瑣学」（scholastic）には、あまり魅力を感じなかったらしい。神学の 3 年目の終りに Valkenburg で司祭の叙階。

4．フランスの Amiens で受ける「第三修練」の間に「神秘思想」に興味を覚えて、熱心に十字架の聖ヨハネやアヴィラの聖テレジアを読みこなす。

5．祖国のドイツを離れて、ミッシオンで神の国の普及に身を捧げたいと決心。本来アフリカの（らい病院）ミッシオンに心が引かれたようだが、北ドイツのイエズス会管区には日本という「ミッシオン」が属するので、日本に派遣されることになった。そこで、中心的な事業は、上智大学。その他、広島、岡山、鳥取、山口、島根県、すなわち「広島教区」に数十の教会をイエズス会が担当していた。

6．ラッサール神父は学生にドイツ語の ABC を教えるよりも、彼らに社会的なキリスト教的な意識を伝えることに興味があった。数名の学生を連れて、東京の貧民街で「上智カトリック・セツルメント」を 1931 年に設立し、活動した。

7．ドイツのクライン管区長神父がかれを 37 歳の若さで日本のイエズス会の上長に任命した。ラッサールはそういう訳で住み慣れた貧民窟から大学所属の SJ.ハウスに移らなければならなくなった。しかし東京のど真ん中でというよりも、広島の教区に住みたくて、イエズス会の「日本管区」（ミッシオン）の本部を広島に移す。

8．広島の幟町教会の建物は古い和式の木造。もちろん畳。祭壇のおかれた部分を大きな襖でしめれば「伝道場」ができてミサの後に信者たちがお茶を飲みながら火鉢をかこんでくつろぐ。

9．そのスペースのうしろにまた大きな襖があって、20 畳以上の広いスペースがある。そのうしろの壁の前は舞台となっている。ラッサールはその部屋の畳を板の間にかえて板を敷いて幼稚園に取り替えた。

（聖堂内の内部を仕切る敷居、鴨居が見える。）

10．「神父館」をイエズス会のブラザー・グロツパが設計、3 階建てのしっかりした西洋風の建築。岡山から教区長も来てそこで住むようになって、ラッサール管区長の住まいと事務所もそのなかにあつた。

グロツパー修道士は、近辺のどんな建物よりも 8 倍強いと威張つていたが、実際、そのおかげで原爆の時 5 人の命が助かった。

（戦前の神父館＝戦後ほぼ同じ姿で再建された。）

11．広島に移ってから、ラッサールは禅の理論だけでなくその実践にも興味をもつようになった。そしてお寺で接心に預かるようになる。

その動機としては、（ア）日本人の心をより深く悟ること；（イ）キリスト教的な霊性・黙想の条件となる集中の準備；（ウ）見性（けんしょう）の理想郷への憧れなど。80 歳になった彼に山田耕雲老師がいよいよサトリに達したことを正式に承認したとのこと。しかし「老師」、つまり接心を指導する資格をあたえられなかったようである。にもかかわらず、日本だけでなく、世界各国でカトリック的な接心を指導することになる。ヴァチカン第 2 公会議の前にそのためにカトリック内部からも厳しい批判をうけたことがあるが、その会議の後、そのような批判がほとんど聞こえなくなった。

12．「キリスト教的な座禅」を行うためまず広島で、そして 1969 年に東京の秋川の山奥で「神冥窟」と名の付く「禅道場」を造る。外国からも彼の指導する接心のために訪れてくる。

13．1945 年 8 月 6 日広島の幟町で被爆。真夜中に担架に乗せられて、被爆の 9 年前に彼が建てた長束の修練院で数週間病床につく。クラウス・ルーメルは、担架を担いだ 4 人の内の一人。

14．ラッサール神父は、子どもの時にチェロを学んだようだが、戦争中、幟町で毎日曜日午後 3 人が集まってトリオの練習をして、教会でも、シロウトなりに発表会を催した。その関心が実ったせいか、戦後幟町の敷地を広げて、今なお継続する聖エリザベト音楽大学を設立。戦争中、求道者が教会に親しめるため、なお土曜日の夜にレコード音楽会（オンバン鑑賞会）を開く。　　※オンバン＝音盤

15．1947 年からしばらく日本の状況を理解してもらうため、欧米旅行。平和記念聖堂（1954 年完成、献堂）の発案も其のころではないか？　日本の経済的な復興が未だ実らない時に国内の募金運動が渋って、海外でその理念を普及し、大聖堂の中の設備、たとえばパイプオルガン、ステンドガラス窓、祭壇など、それぞれのドイツの都市から寄贈してもらう運動。

16．執筆活動。数十点の著作、無数の記事でカトリック禅を解説・紹介。英語、スペイン語、フランス語、十か国語に翻訳される。

17．1968 年から東京の SJ ハウス、また五日市（東京秋川）の山奥の「神冥窟」に移住、90 歳で体の調子が悪化するまで、毎年 30 回ほどの接心を指導する。聖母の巡礼所 Kevelaer にある病院で癌の大きな腫瘍の手術を受けてから、元の身体に戻らない。「骨が日本の土になるまで」一日本から帰天しようと切に願ったが、もはやドイツからの「日本帰国」を医者が許さないので、最後を、ミュンスターのイエズス会の修道院で過ごした。其の魂が神の御許に上った時に周りの数名の方々は彼の大好きな「GroBer Gott wirloben dich…」（われ、神をほめ、主とぞ、讃えます、12 番）を歌ったとのこと。

18．故人の希望であったか、それとも弟子たちの願いであったか解らないが、分骨を可能にするために、ドイツで初めてのイエズス会士の火葬が赦され、広島の平和記念聖堂の左側の脇祭壇に一部が納められた。参拝して下さい。　（※講演レジュメより）

■世界平和記念聖堂献堂５０周年を迎える祈り

献堂５０周年を迎える世界平和記念聖堂は、ラッサール神父の「平和の実現」に一人ひとりが気付き、「キリストの平和」の実現に向かって、こころを一つに共に祈るよう招いています。

聖堂５０周年を迎える祈りは、毎月６日を「ヒロシマ平和の日」として、それぞれの家庭や小教区で地区の実情に合わせて取り組んでください。

世界平和記念聖堂についての十分な情報のない人や小教区のために、毎月の「祈りの意向」を、お伝えしています。それぞれの家庭や小教区で、これらの意向や資料を参考に、一人ひとりの霊性を高める「祈りに」取り組んでください。

（献堂式における本祭壇：この時は、ステンドグラス、モザイク壁画、鉄柵がまだ整備されていない。なお、今はない十字架、聖櫃が見られる。写真＝幟町教会蔵）

【今月の祈り】

◆３月の意向

「平和は犠牲の代償なり」

世界平和記念聖堂の本祭壇は、ベルギー市から広島市に寄贈されたものです。大理石の本祭壇には、「平和は犠牲の代償なり」と銘が刻まれています。第２次世界大戦では、ベルギー市民も多くの犠牲を払いました。その市民が原爆犠牲者の慰霊と平和の実現のためにと、祭壇を寄贈してくれました。「多くの犠牲の上に今がある」ことに感謝するとともに、今なお犠牲を強いられている弱い立場の人々が多くいることにも気付き、「キリストの平和」を実現するために何をすべきか、何が出来るか、私たちが払うべき犠牲はなにか、自らに問いただしてみましょう。あなたは、「他人の痛みを自分の痛み」として、どこまで感じていますか？

（聖書の言葉）

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。
（ヨハネ 12-24）

（黙想）

（祈り）

1945 年　広島・長崎に投下された原爆によって，多くの人々がその犠牲となりました。それから 59 年の歳月が過ぎ、私たちは一見平和の中に暮らしています。しかし、現実には、今、イラクをはじめ地球上には、戦争状態が絶えません。私たち一人ひとりが理性に従い、自らの行動に責任を持ち、キリストに従って生きる人々の輪を広げ、現実の社会の中でキリストの平和が伝えられますように。

被昇天の聖母に捧げられた世界平和記念聖堂によって、数多くの人が本当の、そして深い心の平和を見つけ、世界平和の礎（いしずえ）になりますように。　　アーメン

※今月の「聖書の言葉」と「祈り」は、祇園教会が担当しました。

■資料紹介

●「世界平和記念聖堂の建築をめぐって」

ー講演と対談ー

「建築家村野藤吾さんと世界平和記念聖堂を語る会　編」代表：小林正典

（1984 年 3 月 30 日発行）

（A4 版　25 ページ）

＜内容＞

・武蔵野美術大学教授であった長谷川堯（たかし）の司会によるラッサール神父と村野藤吾（世界平和記念聖堂の設計者）による対談記録。

（1983 年 7 月 17 日　世界平和記念聖堂にて開催。）

・愛宮神父の聖堂建設の経過について

・村野藤吾の聖堂設計の経緯や設計意図など

■部会報告

＜総務部会＞

２月２２日に広島地区の実行委員会を開催しました。経過報告の後、部会に分かれて、話し合いを行いました。総務部会では、各小教区の取組みを情報交換する「小教区便り」の発行や連絡網の整備などに取り組むこととなりました。

＜霊性・典礼部会＞

第３回部会では、８月５日夕刻に行う予定の献堂記念ミサの意向を「献堂記念と平和祈願」とすること、当日の典礼を具体化する検討を進めることなどを話し合いました。

＜平和活動部会＞

３月２０日のラッサール神父と共に働いた人々の話を聞く会の進め方などを話し合うとともに、平和活動、聖堂のスケッチや平和の歌の募集、講演会の開催などの部会活動とその担当者を決めました。

＜聖堂存在維持部会＞

初めての部会を開催しました。幟町小教区だけでなく、教区をあげて聖堂（カテドラル）の存続を考えてゆく必要があることなどを話し合いました。具体的な事柄は、今後検討することになりました。

＜記念誌部会＞

初めての部会を開きました。８月までに記念誌を出すことは無理であり、この機に、聖堂建設の記録を整理し、形で残すことなどの部会活動の基本的なことがらを話し合いました。

＜世界平和記念聖堂にあるラッサール神父のレリーフ＞

≪編集後記≫

・ルーメル神父の講演会に 300 人余も参加されました。ルーメル神父の知名度と、ラッサール神父をもっと知りたいと願う人が多いことに、驚いています。

・献堂ニュースは、献堂５０周年の意義を小教区の皆様にお伝えし、平和の実現のための活動をサポートすることが目的です。小教区からの質問、情報提供の要望や意見を、お寄せ下さい。

・それにしても、ラッサール神父や聖堂建設に努力された方がたの資料に接するたびに、これらの方々の熱意に敬服してしまいます。その感動を、多くの人と分かち合いたいと思います。どのように情報を公開すれば良いものか、アイデアがあれば、ご提案下さい。　（Ｋ．Ａ）

献堂５０周年ニュース

vol．０１　３月号(No.2)

2004.03.01 発行

（編集・発行）

カトリック広島司教区

世界平和記念聖堂献堂５０周年実行委員会

常任委員会

〒730-0016　広島市中区幟町４番４２号

Tel　０８２－２２１－０６２１

http://www.nobori-cho-catholic.com